

ル 4
1543
1



世。多。厚。よ。な。び。乃。意。よ。し。も。い。の。國。の
 文。が。那。れ。あ。る。ま。う。い。の。聖。の。行。し。へ
 を。と。と。お。見。付。致。す。思。ひ。よ。ら。さ。く。山。城
 の。ら。部。の。ま。り。く。の。ま。さ。さ。な。は。あ。ん
 と。百。三。約。な。は。げ。あ。の。意。事。れ。ま。ら。る。
 人の。由。本。傳。する。を。考。へ。ら。る。も。れ。あ
 じ。な。る。あ。お。し。れ。代。の。ま。ら。る。の。ま。ら。る。
 孫。も。あ。ら。る。一。つ。ら。く。流。湯。名。取。集
 か。な。げ。き。て。し。こ。あ。ら。る。の。あ。ら。る。く
 は。乃。ら。あ。ら。る。人。の。ま。ら。る。く。あ。ら。る。し。こ。を

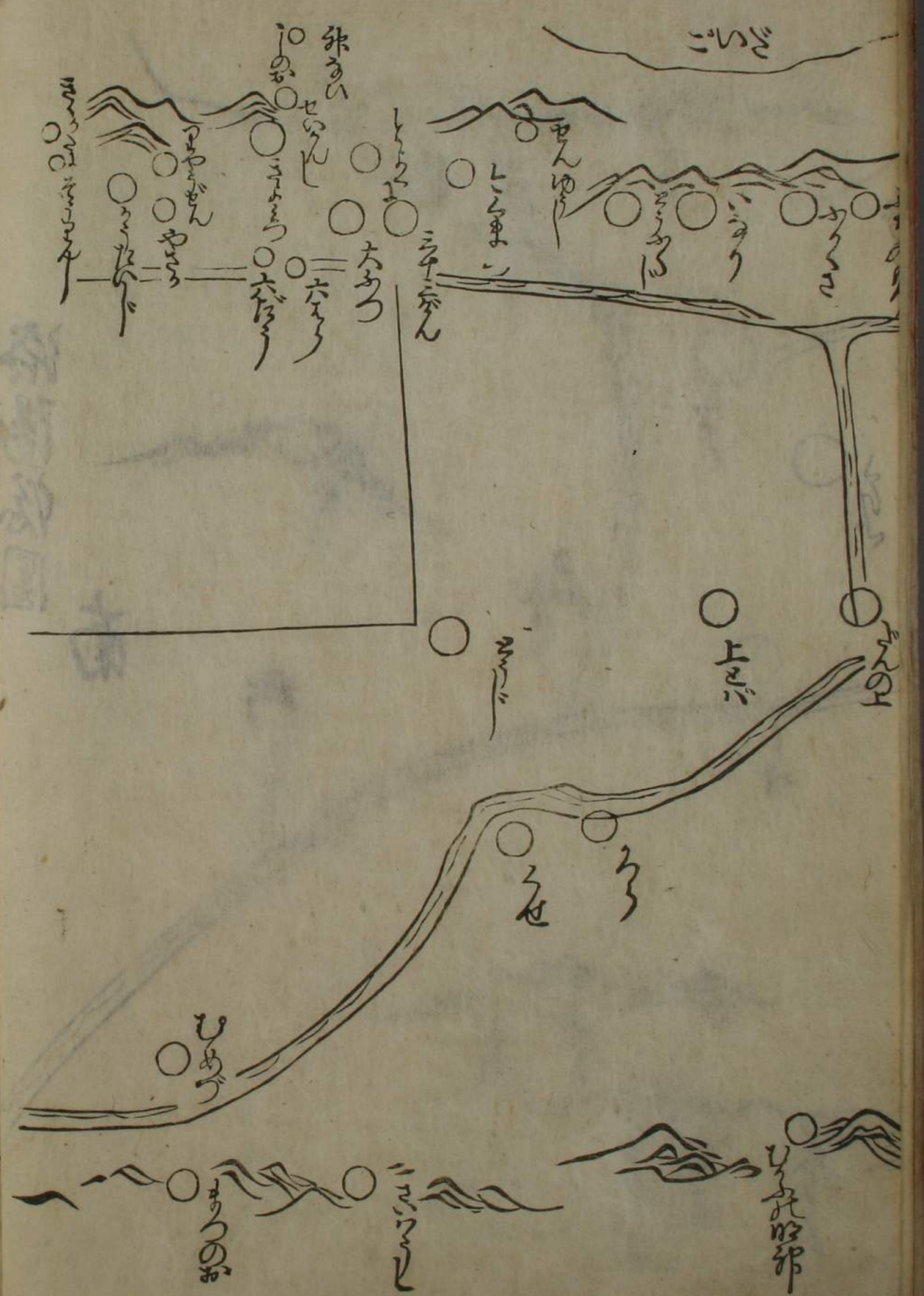
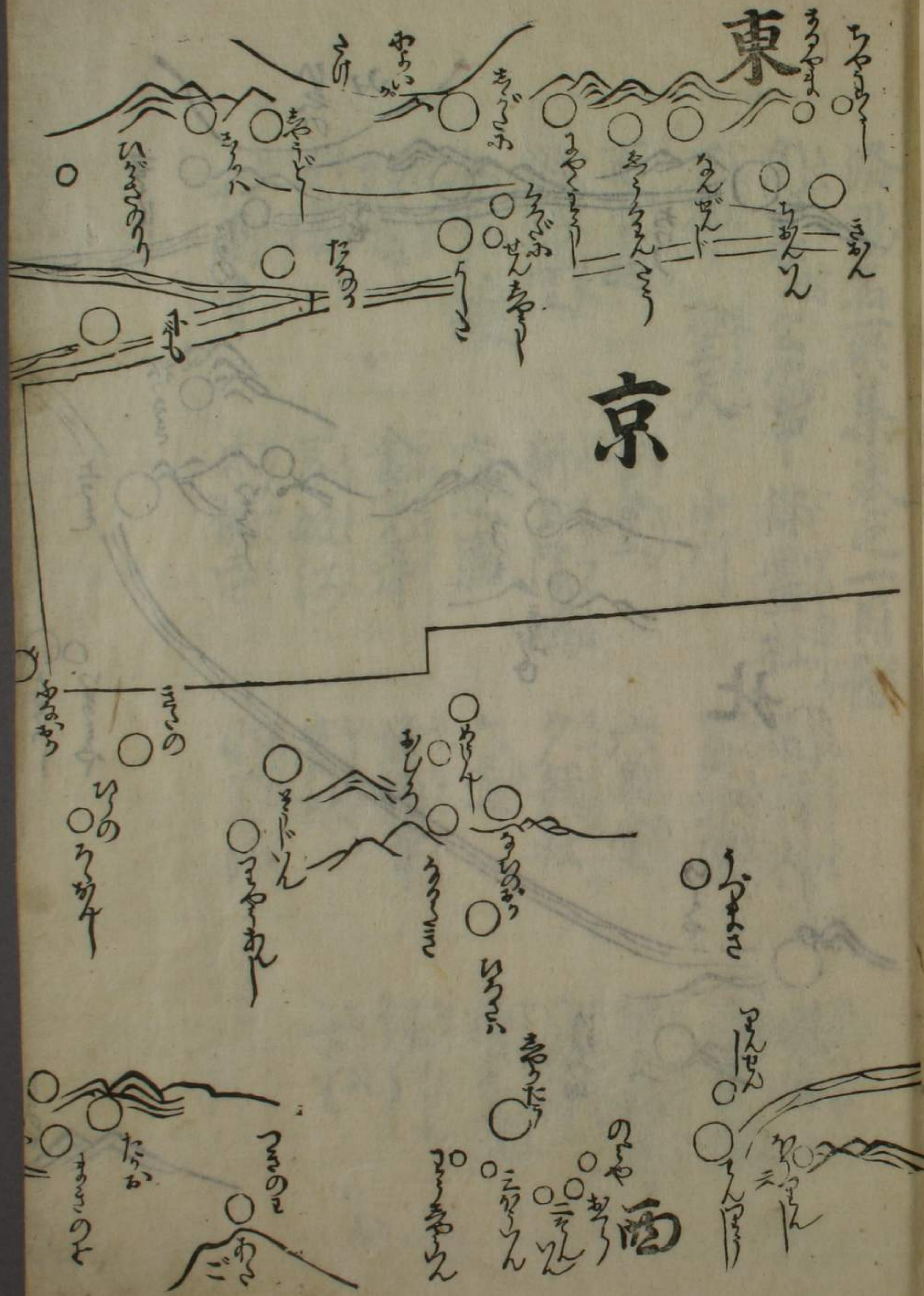
目。張。る。ま。ら。る。も。我。を。た。ら。く。致。友
 か。つ。あ。ら。る。ま。ら。る。

万治元々壬戌八月日

山本春頌撰



Handwritten notes in cursive script, likely providing a legend or additional information about the map. The text is faint and difficult to read.



山取様高侍元等々

女院御取様

仙洞様

九条殿

わのま

小川宮さま

すまじま

丁の中けいさ新

丁にむえけいさ新

通つこま

あひの

ひ

なま

谷地宮内様

山取様	高侍
元等	々々
山取様	高侍
元等	々々
山取様	高侍
元等	々々
山取様	高侍
元等	々々
山取様	高侍
元等	々々
山取様	高侍
元等	々々
山取様	高侍
元等	々々
山取様	高侍
元等	々々

山取様
高侍
元等
々々
山取様
高侍
元等
々々
山取様
高侍
元等
々々
山取様
高侍
元等
々々

頂好寺

丁通

山取様

高侍

通つこま

あひの

ひ

なま

山取様

高侍

元等

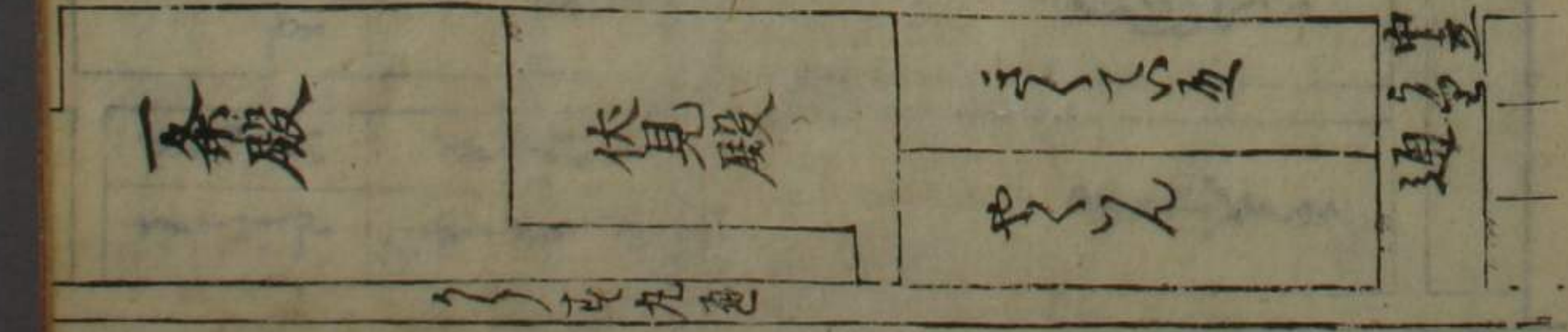
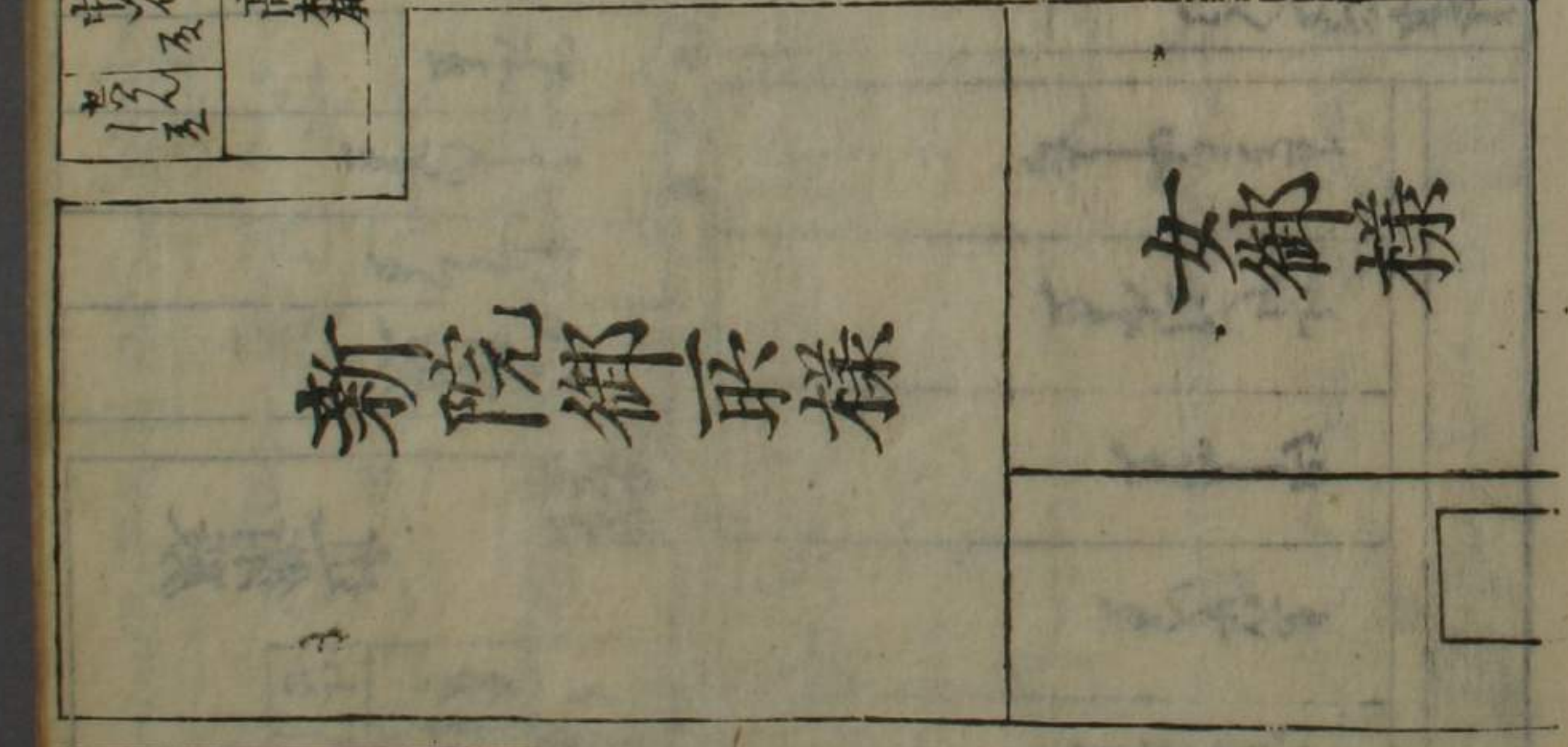
々々

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿



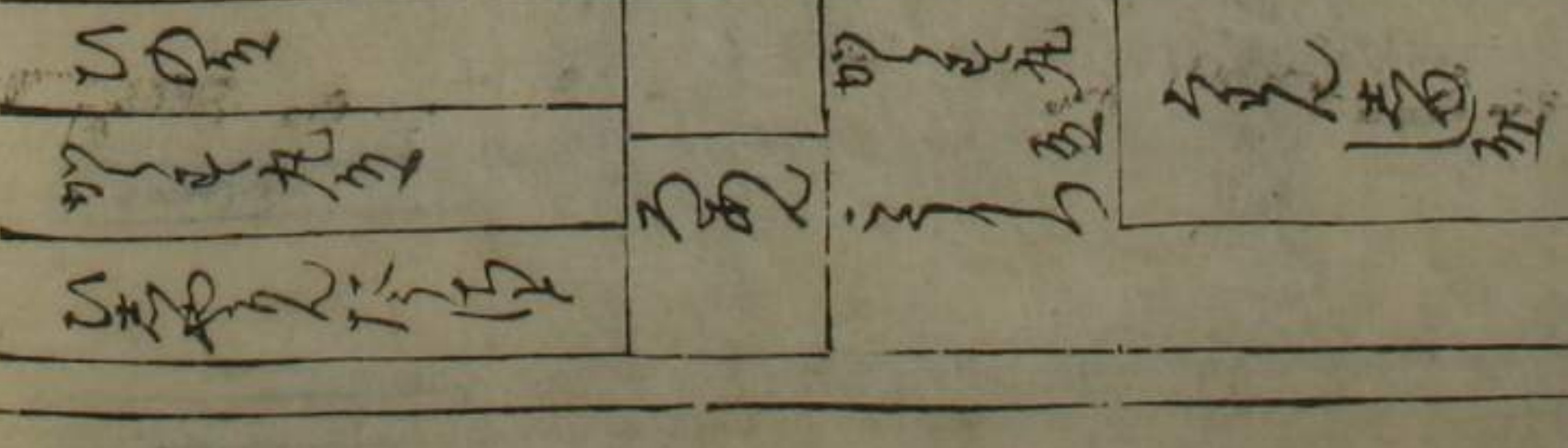
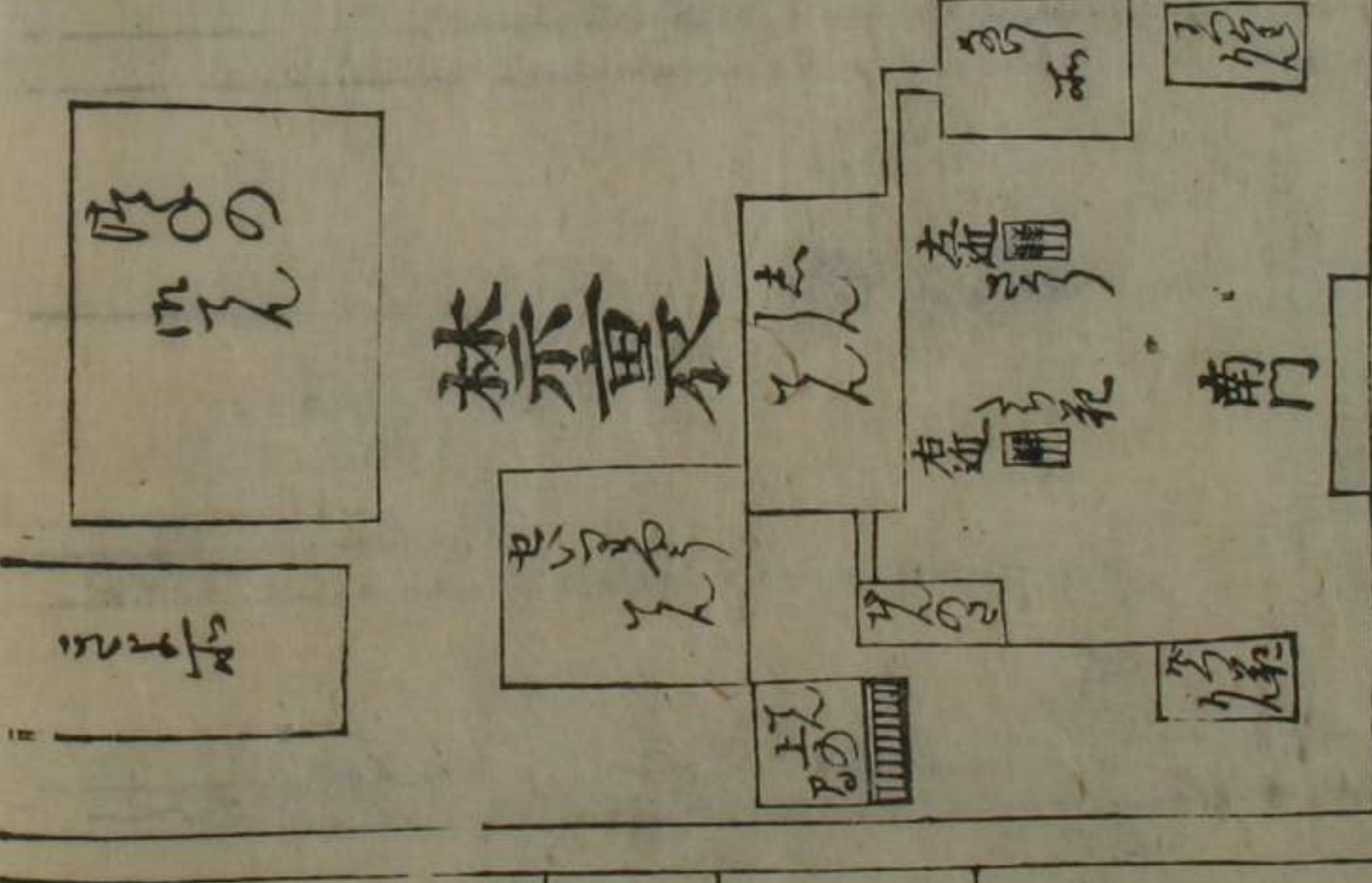
九条殿

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿

中	の	び	ん	の	殿
中	の	び	ん	の	殿



九条殿

以仁之

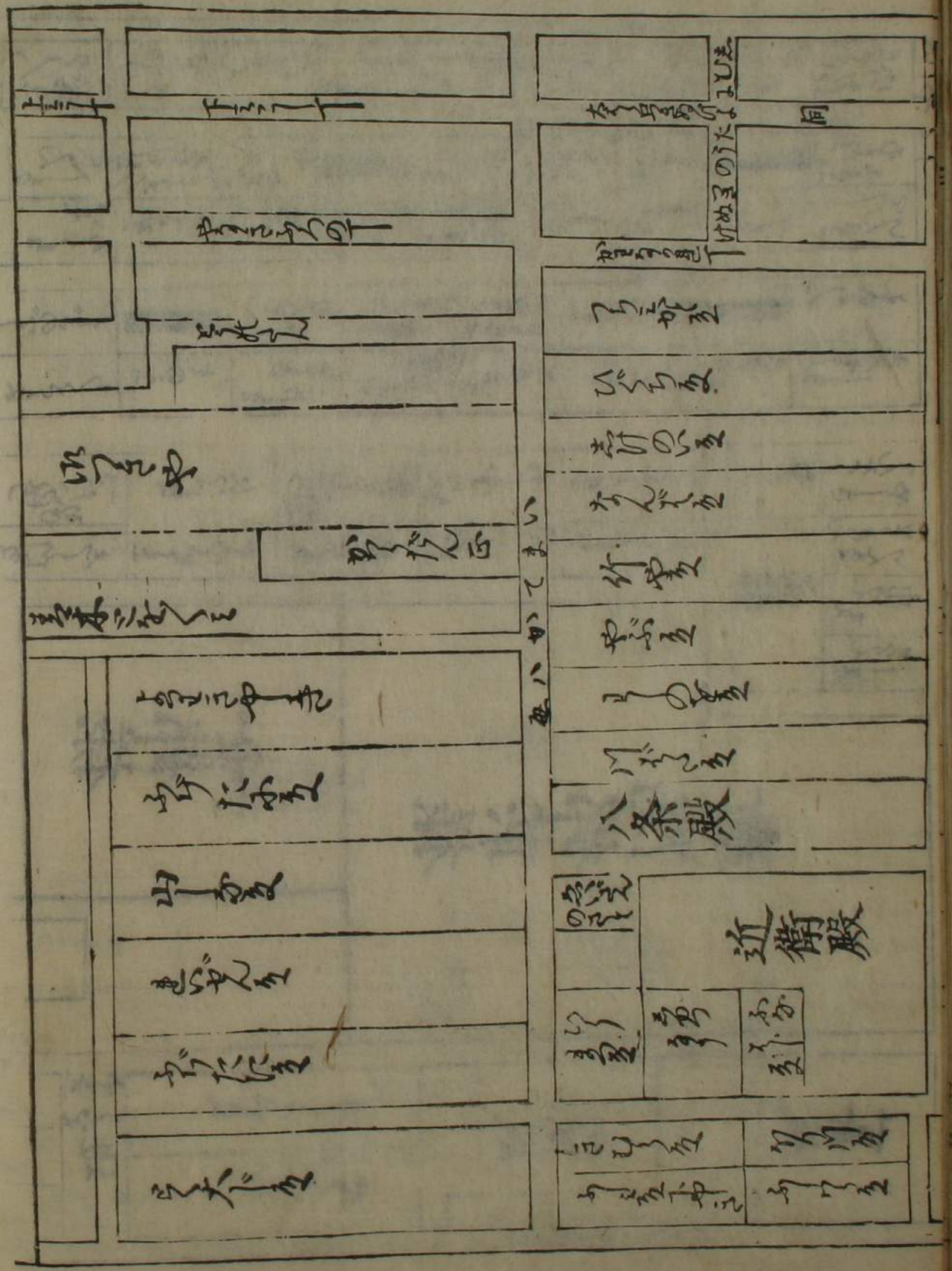
鷹司殿
以隱君

以仁之殿

二条殿

丁

夫京師ハ大衆カシ居（居）而（而）して本朝（本朝）支（支）那（那）と
 毛（毛）に（に）び（び）の（の）さ（さ）い（い）〜士民（士民）カシ（カシ）〜（漢）法（法）禮（禮）
 儀（儀）〜〜業（業）用（用）カシ（カシ）〜（漢）儀（儀）〜
 けら〜今の京（京）カシ（カシ）〜〜〜人（人）と（と）れ（れ）〜
 ち〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 乃（乃）カシ（カシ）〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 ち〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 振（振）伐（伐）〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 漱武（漱武）鸕（鸕）草（草）草（草）不（不）合（合）尊（尊）〜
 地（地）神（神）五（五）代（代）乃（乃）帝（帝）〜
 武（武）鸕（鸕）草（草）草（草）不（不）合（合）尊（尊）〜



天皇（母玉依姫）神乃也。二代之跡はけ。今代百

王（王）帝（帝）祖（祖）のくゆくゆりくゆり。辛酉のとき。

日向國宮崎郡よきゆく。皇王乃宮寶祚とつむ。

乙十九年ゆき。己未の歲十月。東征し。

豊薈（豊薈）中津國よきゆく。武傍（武傍）に都は

はく。檀魚（檀魚）の池とこりゆき。宮殿とて

くつ。乞武檀魚の宮ゆき名付くこと。今の大和國（今の大和國）

ゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。都と他は化

ゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

ゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

ゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

ゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

成務天皇元年。近江國よりけ。志賀郡

日都とて。仲哀天皇二年。長門國よりけり。

豊浦郡。都はゆき。帝ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

女帝ゆきゆき。鬼畏高廉契丹より。貴とて。人

瑞抄の後。筑前國よき。郡よき。ゆきゆき。ゆきゆき。

おき。ゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

位よき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。ゆきゆき。

後皇后。大和國。船余雅攝宮よき。ゆきゆき。ゆきゆき。

天皇ハ。同玉。輕島宮よき。ゆきゆき。ゆきゆき。仁徳天皇

元年。接津國。難波よりゆき。ゆき。高津宮に

村よ帝郡飯さびめ孫をぬぬ今乃るまきや
そまじらうし。万治行まろりて歳しつらうそ
八百と千と五年やうも。まじらひ。帝此あ
まじらひのりくまはりのりし。この平安の地
そ千代万世とふとも。かつらうのそ
とのそまひけいぞ。とらうのりまじらう
あひまじらう

郷雲社

○げ社。上中下れつ所をいげとて王城の東とて

世治桓武帝の時早良太子并し親王の契とてなりす

最澄法師帝に言し。そ社とて八社の神とてあり

吉備聖雲 崇道天皇 早良親王 崇道天皇の子

藤原太夫人母 藤原太夫人 崇道天皇の御妻 藤大夫 藤原氏祖也 橘

太史 逸勢酒負のま 文太史 合弟一のま 火雷天神 山野

園韓神

○げ社。園神一座

延喜式。園神一座韓神二座。この宮内省の坐とて

月十一日の日にありとて。まじらうのりまじらう

ふらふらとたつたそのつらさのこころをいふ

縣宮

○は宮の二条の東洞院の西からうらうら拾及抄の巻に

今考ふに禁中西のあつた門の南よりの小社

中無師光よりふ我たのむわりのまのまのこころ

もあつたけとあふこころをまのこころ

石神

○は西の秋述堂より三町東の聖天のあつたやえのあつた

乃こころをいふこころをいふ

聖天

○ははは湯の伝よりくおまか公とせり南へ象のあつた

中川

十一

○は川に舟人の魂の霊のあつたあつた

式部令婦よりふいよとていふくたのあつたのけん

くたあつた中河乃おやん後まのいふいふ

せき入るくまのいふいふ中川の宿

真如堂

○は寺の今から寺町よりいふ堂西向也なり

覺の他よりいふいふいふいふいふいふ

毎年十月六日よりいふいふいふいふ

淨華院

○は寺の真如堂の南也いふ堂西向淨華院の西

○酒堂サカベに物あり。昔イハレに禁中の伝ツラシむなる所トコロなり。

百萬返

○此寺コノテは淨土ジユツの南ミナミ智恵チエ利リ多タに秋迦堂アキカドウ南ミナミに師堂シドウ

南向也。月ツキ大オホ日ヒに百萬返ヒヤクマンヘンの珠たま粒りゅうと云いふと云いふ念ネン念ネンと云いふ

少オホ少オホの人の俗ソコに百萬返ヒヤクマンヘンと云いふと云いふ賀カ賀カと云いふと云いふ

此コノ所の浄ジユツ土ツチを信シン持チ病ビョウ者シャと云いふ念ネン念ネンと云いふ

けり。今イマは信シン持チ病ビョウ家カといいふ。病ビョウ家カといいふは信シン持チ病ビョウと云いふ

華堂

○此堂コノドウは寺町テラマチ毎ツネ二条ニジョウより上ノボリ也ナリ。此コノ堂ドウは浄ジユツ土ツチに有アり

願ネガ寺テラと云いふ行ユウ圓エン法師ホウシの願ネガ也ナリ

行ユウ堂ドウといいふは鎮西チンサイの人也ナリ。寛カン延エン三サン年ネンに帝ミカド賦ツキあり。願ネガ上ノボリ室ムロ

冠カウといいふは冠カウと云いふ。此コノ冠カウは人ヒトの冠カウと云いふ

つ。此コノ冠カウは人ヒトの冠カウと云いふ。此コノ冠カウは人ヒトの冠カウと云いふ

像ゾウといいふは像ゾウと云いふ。此コノ像ゾウは人ヒトの像ゾウと云いふ

あり。異イ材サイと云いふ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ

が。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ

れ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ

せり。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ

す。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ

り。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ

こ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ。此コノ異イ材サイは人ヒトの異イ材サイと云いふ

六角堂 願ネガ寺テラと云いふ

○い堂と条より一町がぶねむり町と

願成寺にじう漢伽のともくからいふ蓮とつとぶひ
まじりや座を法了のそびひのよと見つをひくひ
こけつゝ如喜輪觀自在の像とて常々入持ぬふ
と後天玉とててんそく林本とありはらひの地まの
親水と浴けけり。の像と樹の枝とあり浴とてく
像とてくぬまもあつくあつてつゝいふかまわや
あに像とてひひのこもあつてあつてのまの像のけを
まじりあまよはひあつてあつて七世がうといはれん
まじりかまよのまの像とあつてけつていふ時一人の
考記ありあつていふに堂はくせんゝつゝつゝ材木と

おあけい此つゝい地のつゝつてあつてあつてあ
ひつゝつて材木あつていふまの地とあつてあつて
とまかつらつらつていふ堂の圓子こつてあつてあ
かを入りやうつてあつていふと桓武帝都とい圓と
めをせけり付富司城治とていふ堂みらつてあつて
とつていふあつてあつてあつてあつてあつてあ
いとつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
圓の像とて圓の傍徳流ちるとおれとてあつて

誓願寺

○い寺の条守町より二丁並西内なりは保院仏天智天
中野建徳とていふ事相國亮藤原信成とていふ事也
信成は信濃川の南流のありと

三智とも澤山の澤尻仙と違ふゆゑの由行念ふ時
 云ふより一人の女より半分の澤尻仙の曾阿婆を
 の仙師と云はせ給ふべし。こころより入るべき
 ころ心もあつくぬれわすれし出く。人れ仙師より
 心をとりぬる人の喜ぶ神の真化も号ひて後相武
 帝南都よりいふまにけし給ひのぞきより八百餘年と
 ○ 決心院 誓願ののころと律の和泉式部を
 軍よりりれたる人々をいふ。女は長をわすれしより
 和泉式部が守雅致の女也。朝暮春人の心と云ふもの
 あり。そのまゝくわしるのまゝと云ふ。いふ或れをい
 るのまゝくわしる。念仏と時してはまよひけるや

○ 又一遍上人のまね権現のやへはけり。びちまゝく。松と法
 けり。付和泉式部と云ふと出で折る致すの額を
 さらしけり。と云ふ。たゞ堂のまゝ。身程の由女れ丸の再思

因幡堂

○ い堂のまゝ。杉息を烏丸のまゝと云ふ。が堂南向く
 なる。薬師也。大佛を。摘好古。建管と云ふ
 けり。系師など。因幡因幡浦まゝ。漁網と入わらう
 けり。よと。中納言。切子。後向あうくして。一タ。く。に。あり。
 同然し。そのまゝ。おと。権。拍。し。お。り。ま。あ。き。し。よ。
 甲。の。り。り。さ。お。師。ま。ま。お。整。の。と。と。安。を。せ。つ。し。

新玉津嶋

に入教となり。又武蔵國比叺村あり。いづくに授け
弘安三年十月十三日正化岩六子

堀川

○けしは浦中路の西端笹の東におき。てまらり之系下ふ
たり
野宮にち居のきい。まらりくもその人
もとのまらりか。くまらりまらりある堀河のお。又まらり
ぬ忠まらりお。まらりまらりまらりまらりまらりまらり
けりりりりのお。まらりまらりまらりまらりまらりまらり

遠宿

○け揚はま系堀川よりけり。まらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

耳敏

○け河は系堀川よりけり。まらりまらりまらりまらり
七瀬よりけり。まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

雀社

○け社は。まらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

